

編集後記

『英學史論叢』第 12 号をお届けする。本号には、査読を経た研究論考および研究ノート計 3 本とともに、会員の寄稿による書評、英学史随想、英学史時評を掲載している。執筆者、査読者の皆様のご協力に、感謝の意を表したい。

フェートン号事件から 200 年、開国・開港から 150 年の節目を迎え、英学史研究にとって興味深いイベントも各地で開催されている。長い日本の歴史の中で、「英学の歴史」はこんなにも短い。しかしその間、英語を学ぶノウハウの急速な蓄積には目を見張るものがあった、と言っては言い過ぎだろうか。

英語教育の制度を考えても、現在の学習指導要領に相当する「中学校教授要目」が出されたのは明治 35 年、今から 100 年以上も前のことである。そこには「稍々進ミタル生徒二対シテハ英語ヲ用ヒテ説明スルコトアルヘシ」という文言も見られ、現代に通じるものを感じる。

昨年の小・中学校に続き、今年は高等学校の学習指導要領が告示された。これらを歴史的に検証することは、これからの英語教育を考える上で大切な、私たちの仕事と言えるだろう。そうした文脈の中で、本号に掲載された諸論考を読んでみたい。そして歴史から見えてくる「これから」を、本『英學史論叢』誌上で、あるいは研究例会の議論の場で、さらに盛り上げていきたいと思う。

この点を含め、私たちに与えられた宿題は多い。着手したまま完成を見ていない事業もある。少しスリムになった今回の『英學史論叢』は、エネルギーを蓄えている会員諸氏の活躍の場となる日を待ちわびているかのようだ。機が熟すには時間がかかるが、一步を踏み出す気持ちも待ち続けたい。

紀要編集を担当して 7 年目の春、今回も無事に『英學史論叢』を発行できたことを会員の皆様と共に喜びたい。印刷製本には引き続きホワイト印刷(株)の皆様にお世話になった。私たちの紀要を世に出すためのご助力に、心より感謝申し上げたい。(T.U.)

英學史論叢 第 12 号 (通巻 32 号) (平成 21 年 5 月 30 日発行)
編集・発行者：日本英学史学会中国・四国支部 (代表：竹中龍範)
発行所：県立広島大学 馬本研究室内
日本英学史学会中国・四国支部事務局
〒727-0023 広島県庄原市七塚町 562 番地
電話・ファックス：(0824) 74 - 1725 (直通)
e-mail: umamoto@pu-hiroshima.ac.jp